

山里曲輪の石垣

石垣修理工事に伴う現地説明から

上山里(かみやまざと)曲輪下段の石垣は天正8(1580)年、羽柴秀吉の姫路城改築により積まれたと推定されるI期の古式な石垣です。それ以前、黒田時代に石垣はほとんど使われなかったため、姫路城跡で現存最古の石垣といえます。

あまり加工していない凝灰岩(ぎょうかいがん)やチャートなどの石材を使用した野面積(のづらづみ)と呼ばれる積み方です。織田信長の安土城とほぼ同時期のもので、城郭の石垣が発達していく初期のものとして貴重です。



上山里曲輪下段の石垣(修理前)

石垣保存修理工事の概要

- ・期 間 平成25(2013)年12月～平成26年3月7日(予定)
- ・面 積 石垣立面積271㎡ 石材抜け21ヶ所 割れ石材 54ヶ所
- ・工事内容 石垣石材の抜けと剥離の補充、石材割れへの樹脂充填、間詰石補充

上山里曲輪下段石垣では、石材の抜けや割れ、間詰石の脱落が生じていました。ただ、解体を行うとほとんどの石材の取り換えが必要となり、本来の姿と全く異なる石垣になってしまう可能性があります。石垣自体は現状でも安定していることから、今回は解体せず、抜け落ちた部分に石材を補充して間詰石と漆喰で固定する方法と、石材のひび割れに樹脂を注入して割れの広がりを防ぐ工法を姫路城跡の石垣修理では初めて採用しました。



姫路城跡の石垣は、羽柴秀吉の築城から明治時代以後の修理によるものまで、5期に区分できます。

- ・I期 羽柴秀吉改築以後の豊臣時代のもの。野面積で隅角部の算木積(さんぎづみ)が未発達。墓石や古墳の石棺などを再利用した転用石(てんようせき)が多く見られる。
- ・II期 関ヶ原合戦での論功行賞で姫路へ入った池田輝政が慶長6(1601)年から築いた。隅角部に長方形の石を長短組み合わせた算木積がみられ、「扇の勾配」と呼ばれるカーブを描く高い石垣が築かれた。
- ・III期 元和4(1618)年頃に本多忠政が西の丸を設けるのに合わせて築いた石垣。
- ・IV期 江戸時代の補強・修理に伴う石垣。
- ・V期 明治時代以降の修理石垣。



I期 姫山原生林側の石垣



III期 西の丸南面の石垣



乾小天守石垣にある石臼の転用石(「姥ヶ石」)



II期 備前丸西側の石垣(「扇の勾配」)



西の丸石垣の算木積